

北海道教育実践表彰レポート

小樽市立稲穂小学校
主幹教諭 葦澤 滋 一

1 はじめに

今年度、これまでの教員生活とは大きく異なり、主幹教諭という職を拝命することとなりました。主幹教諭の役割は、各学校の実情等により様々な内容がありますが、私は、管理職の学校経営方針を分かりやすく一般教員等に伝えることが、その職の大部分に当たるものと考えました。

具体的には、学校長が示す学校経営方針における目標（数値目標を含めた）を実現するための具体方策を考案し、教職員との共通理解の下、子どもたちの成長に向けた教育活動を推進することが重要であると考えました。

2 具体的な取組 ～ 「稲穂小学校キャリアパスポート」の作成 ～

①作成の動機

学校長が掲げる学校経営の基本方針の根幹は、全教職員が共通の目標を理解することにあります。本校の教育目標である「りこうで たっしやで ほがらかな 稲穂の子」という知・徳・体のバランスの取れた子どもの育成について、一見、全教職員で共通して理解していると思われた目標が、協議を重ねてみると、個々の捉えが微妙に異なっていることに気がきました。

そこで、目標に向かって育てる目指す子ども像を明確にして、誰もが分かりやすい新たな目標が必要であると強く感じました。

②作成の経緯

全教職員による具体的な共通目標の必要性を管理職に進言し、作成の承諾を得たことにより、各学年主任に対して作成フォーマットを提示しました。フォーマットは、本校の教育目標である「りこうで（知） たっしやで（体） ほがらかで（徳）」の姿について、各学年において、具体的にどのような姿が見られると目標が実現したと判断できるのかについて、記述を求めました。

【当初のフォーマット】

	りこう（知）	ほがらか（徳）	たっしや（体）
第6学年			
第5学年			
第4学年			

期限を決め、学年主任を通して全教職員から意見を集約しているうちに、次のことが職員からの意見として上がりました。

- ◇ 目指す知・徳・体の姿は、一年間という長期間ではなく、さらに短期間で成長を支え、見取る必要がある。
- ◇ 知・徳・体について、それぞれどのような内容を目指すべきなのか決める必要がある。

そこで、学年主任を中心に協議を重ね、次のことを仮決定し取り組むこととしました。

- 目指す姿は、学期ごとに設定する。
- 知・徳・体の内容は、学校経営の重点8項目に合わせ、知（学び方）、徳（人間関係・社会性）、体（運動習慣・生活習慣）の内容とする。
- 目指す姿に迫る具体として、時間的な余裕を生み出すため、全教職員で日課表の改善に着手した。



<日課表の改善作業>

③作成結果

約5カ月の間、全教職員の意見の集約とフィードバックすることを数回繰り返し、全教職員が目指すべき共通目標を作成しました。

【稲穂小学校 キャリアパスポート（抜粋）】

	りこう	ほがらか	たっしや
	学び方	人間関係・社会性	運動習慣・生活習慣
重点	○ねばり強く最後まで考える。 ○先生や友達の話をよく聞く。 ○ほかの人の話の内容と自分の考えを結び付ける。	◎いつでも相手の気持ちを考え て行動する。 ○自分やほかの人のよいところ を進んで見付ける。 ○良い行動を考え進んで取り組 む。	○楽しくからだを動かして健康に 気を付ける。 ○命を大切に、安全に気を付 けて元気に過ごす。
6年	①学習課題を設定し、目的意識をも って多様な解決方法を考える。 ②探究的に様々な考えの関連性を把 握して学び合う。 ③多くの考えを理解し、自分の考えを 広げたり、深めたりする。	①自分と友達の将来を見つめ、相手 の思いや考えを尊重し、高め合う態 度を身に付ける。 ②全体が向上するために、自分の役割 や責任を自覚し、状況判断して最も よい行動を選択する。	①運動の大切さを知り、進んで体力向 上を目指す運動習慣を身に付ける。 ②健康・安全な生活を心がけ、よりよ い生活習慣を身に付ける。
3 学期	○学び合いを通して、友達の考えを取 り入れて、自分の考えを広げたり深 めたりすることができる。	○自分と友達の将来を見つめ、互いの 思いや考えを尊重し、認め合う。	○健康・安全な生活を心がけ、よりよ い生活習慣を身に付ける。
2 学期	○学び合いを通して、多様な考えのつ ながりを自分で見付けることがで きる。	○学校がよりよくなるために自分の 役割や責任を自覚し、状況を判断し て、最もよい行動を選択できる。	○運動の目的、健康安全の目的を理解 し、自分の生活を見直すことができ る。
1 学期	○いろいろな見方や立場を分かり、自 分の考えをもつことができる。	○学校がよりよくなるために、自分の 役割や責任を自覚し、行動すること ができる。	○運動の大切さを知り、体力向上に向 けた運動習慣を身に付けることが できる。

④活用の仕方

ある程度、各学年・学期で目指す姿を設定した後、活用の仕方についても協議を重ねました。活用の仕方については、職員の意見をまとめ次のように整理し、管理職へ提案しました。

<活用1>各学年の学期ごとの個人目標の設定と振り返りに活用する。

<活用2>各分掌業務の大目標として活用する。

<活用3>子どもはもとより、保護者、地域住民にも広く周知し、子育ての目標の共通化を図る。

⑤成果と課題

キャリアパスポートの作成については、参考事例等がない内容だったため、全教職員と協議を重ね、本校の子どもの実情に応じた目標づくりに苦心しました。

成果は、教職員はもとより、子ども、保護者、地域住民等に広く周知したことにより、稲穂小学校の子どもを育てる指針を分かりやすく設定することができました。なにより、子ども自身が、自ら成長する姿を思い浮かべて行動できるようになりました。

課題は、目標の到達状況の把握方法が各種アンケート調査によるため、多様な検証の方策を検討する必要があることです。



⑥今後の取組

キャリアパスポートに掲げた目標を実現するために直結するような学年や分掌の業務について整理し、進捗状況を管理するなどして、教職員が組織的に学校経営の基本方針に基づく職務をやり遂げた満足感を味わうことができるようにする必要があります。